

胃病と共に冷性や

月経不順までも救はれた喜び

大原美代子

私は娘時代から鮫肌のためにどれ程悩んだか知れません。ヨクイニンが良いと聞いては用ゐる、薔の根の煎汁が皮膚にいよと教へられてはそれを服み、其他人から聞いたたり、

新聞や雑誌の體驗記事

などを見たりして、良いといふ方法は何でも試みました。又食物に脂肪が不足するためだと言はれて、油物や脂肪類を多く攝る様にもしましたし、油性クリームを塗つてマツサージすることなども續けました。それらは何れも一ヶ月や二ヶ月の一時的な試みではなく、治したさの一心から短くて半歳、長くは一年以上も續け

て、其の根葉強さを却つて人から笑はれた程でした。けれども、この方法も私の性には合はないのか、少し良くなつたと思つても、直ぐ又後へ房り戻りする始末でした。それに、

脂濃い物の過食や

いろんな煎汁などの亂用が祟つて、元來丈夫でなかつた胃を害し、遂に胃アトニーを惹き起して僅かの食物さへ、お腹に保たなくなつたのが二十四歳の八月頃でした。以來町醫者の藥を浴びる程服んでも癒らず、果は胃酸過多症まで併發して、隣大へ七ヶ月も通院しましたが、それも思はずしくなくて

通院を諦めたのが二十五歳の九月末頃でした。

その後は人並の食事も攝れず、少し多い目に食べても次の食事までの苦しさは一通りではなく食後ちよつと、身體を動かしても口に水が上る始末で、極く小さなお茶碗に、

黄返した軟かい御飯を

半分位頂くのがせい／＼でした。

こんな有様で全身は瘦せる一方ですし、頬なども皆ばつて老人臭くなり、鏡を見るのが何よりも苦痛でした。ところが今年の三月初旬、新聞で澤村博士の「錠劑わかもと」を知つて、早速それを註文して服み始めましたのは、忘れもせぬ彼岸のお中日のことでした。すると服用四日目頃には、何年も此の方荒れ切つて物の味もわからなかつた舌に、鹽氣も滲みず、御飯も一番炊きの硬いまゝのを茶碗に山盛り一杯、美味しく頂けるやうになりましたのみならず、食後ちつとも不快な苦しい

症状を感じなくなりました

ました。そして三ヶ月連服の後には、頭も軽くなつてはつきりして、うとく／＼してゐた夜の眠りも深くなり、朝は誰よりも早く目覚め、倦怠かたつた全身が無病時代にも増して活氣つき、毎日の家庭の雜用も人

手を借りずに、自分でどし／＼處理出来るやうになりました。

殊に嬉しい事は、胃病にかまけて忘れてゐた例の鮫肌までが、何時の間にか生れて始めてのすべ／＼した艶肌に変造されてゐたことでした。其の上血色もよくなり、全身がムツチリと肥つて來ました。次に特筆したいのは胃を害して以來、秋冷を覺える頃から襲つて來た、下半身の冷え込みも今年には忘れたやうに起らず、不順がちであつた

月経までが順調に

なつたことです。そのためか、今年には手足の荒れも知らずに過せさうです。それから私は細い絹絲で、齒の隙間を掃除する癖がありました。昨今では齒並が引締つて、其の絹絲がどうしても扱めなくなりました。

「齒にまでそんな効果があるとは全く奇蹟としか思へぬ。」と皆が申します。これは私が體驗した事實ですから、決して奇蹟でも偶然でもありません。私は今更ながら「わかもと」の偉効には、愕然といふよりも驚ろ呆れて居る次第です。お蔭で今年は何年振りかにお餅がどつさり頂けると思つて居ります。

東京市芝公園大門内際
發賣元 榮養と育兒の會

電話 芝局三三八番 二二六五番
振替口座東京一七〇〇番
郵便私書函 芝局二四番

〔錠劑わかもと〕價格…携帶用ポケット型瓶五十錢 三〇〇錠入(二十五日分) 一圓六十錢 一、〇〇〇錠入 五圓
◇各地藥店に品切の節、又は直接發賣元より送藥を願ふ方は、藥價のみ御送金次第、送費は本會にて負擔、一個より急送す。
◇粉末わかもとⅡ新 藥Ⅱは従前通り左記の價格にて發賣致します。
小瓶 二五瓦入 五十錢 九〇瓦入(三〇日量) 一圓六十錢 二七〇瓦入 四圓五十錢 五四〇瓦入 八圓五十錢

昭和十年三月四日印刷納本
昭和十年三月七日發行

【非賣品】

東京市芝區芝公園十一號地二番

編輯兼
印刷發行人

久

保

田

弘

東京市深川區門前仲町一丁目廿三番地

印刷所

永

進

社

印刷所

東京市芝區芝公園大門內

發行所

榮養と育兒の會

振替東京一七〇〇番
電話代表芝(43)二五番(外六本)

終

